

研究課題	「神仏共生」に関する総合的研究 一戸隠山を中心として一
研究代表者	木村 周誠 (仏教学部 仏教学科 准教授)

1. 研究目的

- (1) 戸隠神社および院坊の文献調査
 - ①戸隠神社管理の歴史資料
 - ②久山家管理の歴史資料
 - ③極意家管理の歴史資料
- (2) 戸隠山および周辺地域の文化研究
 - ①柱松神事
 - ②戸隠古道・飯綱山のフィールドワーク等

2. 研究方法

上記区分に即し、

- (1) ① 神社整理による目録に即した歴史資料の閲覧・撮影、文献調査（解読）
② 歴史資料の閲覧、簡易な撮影（事前調査）、文献調査（解読）
③ 同上
- (2) ① 式年大祭（5/9）における柱松神事の実地調査（記録等）
② かつての戸隠修験の行場（三十三窟）の実地調査（5窟分）

3. 研究成果と公表

上記（2）-①に関しては、神職による真言の読誦（御印文授受に際して）等、かつての神仏習合時代の片鱗は見受けられるが、基本的には神事を中心とした復興であり、その現代的意義を除けば、仏教学的な研究対象とはなり得ないとの結論に達した。

（2）-②については、かつて回峰行が勤修されていたであろう行場は自然環境の変化により現在では到達するのも困難な状態にあることが確認できた。

（1）に関して、戸隠神社関連の歴史資料は、戦前（1931-46）に内務省、戦後（1963-71）に信濃毎日新聞社による大規模な調査が実施されている。しかし、仏教関連の資料（次第法式類等）、特に院坊文書については、整理すら未着手であることが判明した。このなかには 1942 年の火災によって焼失したとされていた資料の一部も含まれることが本研究によって判明した。

また、現在では神社関係者にすら顧みられることのない戦前の内務省による調査（嘱託：小林健三 [広島文理科大学→玉川大学]）に関して、その調査報告書および調査カードの存在を確認した。ここには、焼失したと思われていた『顕光寺流記』異本、その書写（その写し、校訂済）も含まれる。この内務省調査には当時の本学図書館司書鎌田良賢が、1727 年に観修院別当となるも 1738 年に伊豆大島に配流となった天台僧乗因に関する研究で関与している。

上記、新発見資料については乗因関連と思われる「靈符行法」等も確認している。これらは、近世日本天台史、および近世神道（山王一実神道、修験一実靈宗神道）の解明に資するものであり、ひいては神仏習合（仏教の現地化）、および道教の体系的移入（宗教混交の複層性）を明らかにするものである。

本研究において確認した新資料については、平成二十七年度天台宗教学学会（H27年11月6・7日開催）において代表者である木村周誠が「地方学僧と広学堅義―戸隠覚照院所蔵文献を通じて―」、分担者である塩入法道が「信州戸隠山における法華信仰について」、同じく分担者の木内堯大が「戸隠権現信仰の一考察」、協力者である中川仁喜が「近世戸隠における修験の弟子入りについて」の口頭発表を行い、また、内務省調査については分担者である関口崇史が佛教文化学会第25回学術大会（H27年12月5日）において「昭和初期における地域史研究の一齣―長野戸隠神社調査を手がかりに―」と題して口頭発表を行った。随時、学会誌において研究論文が掲載される予定である。

現在、これらの資料に関する整理・翻刻・研究は緒についたばかりであるが、最終的には目録化し、考察を加えた調査報告書を作成し本学の機関リポジトリ等で公開する予定である。